

【授業改善に向けての参考例】

「英語表現のシャワーを十分に浴びせ、発話・対話の機会を確保し、伝え合う喜びを味わわせる授業」

単元名

Hi, friends! 2 Lesson 8 What do you want to be? 「夢宣言」をしよう

第6学年 全4時間

ねらい

- 単元を通して、段階的な慣れ親しませ方「①意味に意識を向けながら、十分に聞く②繰り返し発音し、慣れる③記憶を促し、自分のものにする④場面に応じて、活用する」を大切にし、英語を使うことができた達成感を味わえるような指導方法の工夫を図る。
- 単元全体を通して、思考・判断・表現を促す活動を意図的に実施し、主体的・協働的な活動を児童が展開できるようにする。

授業で伸ばしたい能力

1 単元を通じた英語への慣れ親しませ方

単元の前半部分の、主に上記の①②をねらいとした活動では、児童に思考させる手立てを講じ、英語の意味や言語構造への気付きを促すように工夫する。単元後半部分では、児童が相互に高め合えるような活動を実施し、よりよい伝え方を工夫させ、主体的に表現し合う活動を設定する。

課題意識、相互に高め合う関係

良質なインプット

→

つなぎ方の工夫

→

主体的なアウトプット

2 単元指導計画の工夫

既習事項を再利用（活用）できるように、単元を構成するように意識する。特に、単元のゴールとして設定するコミュニケーション活動では、相手を意識した必然性のある場面設定を大切にし、児童がお互いにコミュニケーションを楽しめるような活動を仕組むようにする。

具体的には、「Show and Tell」のような自己表現活動においても、一方的に発表するのではなく、インタビュー形式で取り組ませたり、発表後に聞き手が質問をしたりする活動を取り入れるなどの工夫をする。

3 授業のポイント

○ 第1時

世界の子どもの様々な夢を知り、自分の夢を英語で紹介したいという思いをもたせる。

○ 第2時

インタビューゲームをすることで、対話が成立するような「つなぎ言葉」や「ほめ言葉」に気付かせるようにする。

○ 第3時

これまでの学習を想起させ、自分の夢の紹介に必要な表現を選び練習する。

○ 第4時

お互いに夢を伝え合う喜びを味わうことができるように、雰囲気づくりや場の設定を工夫する。